

1 学校関係者評価委員名

◆ 学校運営協議会委員 14人 (各役員)	
【学校運営協議会 会長】	中元 清二
【学校運営協議会 副会長】	江良 春隆
【地域学校協働活動本部 地域安全部会長】	濱崎 彰吾
【地域学校協働活動本部 学校応援部会長】	片白 健次 他

2 学校関係者評価

- (1) 豊かな心の育成 【学校関係者評価の数値 R4→R5】
- ・ 校長の学校経営行動目標として、「あいさつの励行」を掲げ、教職員の「せいかつプロジェクト」や児童の委員会活動を中心に、「あいさつ運動」や「あいさつキャンペーン」などに取り組んできた。児童への意識化は進んできたが、地域の声として「もう少し元気よく挨拶をしてほしい」ということがあがっている。今後も中学校や家庭及び地域との連携を図り、気持ち良いあいさつの姿を地域にも広げてほしい。
【あいさつ・礼儀 3.6 ⇨ 3.3】
 - ・ 「こころプロジェクト」において、一人一人の存在を大切にする「くん・さんづけ」の取組や、児童のよさの賞賛と児童自身に伸びを実感させる取組を行ったことで、自己肯定感等の高まりが少しずつ見られた。
【一人一人の児童の尊重 3.6 →3.6】
 - ・ 人権旬間の取組を通して人権教育の推進と充実が図られ、また道徳科の授業を通して道徳教育の深化が図られた。
【心の教育、道徳教育 3.8 ⇨ 3.4】
 - ・ 昨年に引き続き、廊下の歩行、室内での過ごし方、言葉遣いなどの規範意識に学年差や個人差が見られた。低学年からの系統的、継続的な指導を行っていききたい。
【規範意識 3.3 ⇨ 3.1】
- (2) 確かな学力の育成
- ・ 校内研修のテーマとして、「主体的に学び続ける東っ子の育成」を掲げ国語の授業づくりを中心に研究を進めてきた。児童の主体性を生むための学習課題の工夫や話し合い、振り返りの工夫を授業の中にどう取り入れていくかを具体的な実践をもとに研修を深めた。
【授業づくりの工夫3.5 ⇨ 3.4 意欲的な学習態度3.6 →3.6】
 - ・ 全国学力学習状況調査及び熊本県学力学習状況調査の結果については概ね良好であったが、定着度に学年差、個人差、教科間の差が見られ、結果の分析と共有及び課題改善の取組が望まれる。

(3) 健康な心身の育成

- ・ 「風水害引き渡し訓練」及び「小中合同地震津波避難訓練」、防災会議など、教育活動の様々な場面で安全教育への意識の向上と命を大切にすることを育む指導の徹底を地域や家庭と連携を図りながら進めてきた。

【安全教育 3.8 → 3.8】

- ・ 年2回の学校保健委員会を開催し、健康に関する本校の課題や取組の方向性を示唆していただいた。健康診断結果の事後措置を行い、肥満傾向は少しずつ解消に向かっているが、視力低下児童、さらにはう歯の治療に対する改善が必要である。

(4) 社会に開かれた教育課程の実現

- ・ 運動会や学習発表会等、よさや頑張りが見える児童主体の学校行事が設定され、参加者の心が動かされると共に学校の一体感を感じた。

【学校行事の工夫 3.6 → 3.6】

- ・ 地域学校協働活動における「もの・ひと・こと」との主体的な関わり合いをもたせた体験活動の充実が、より一層図られた。

【地域との連携 3.8 ↘ 3.5】

- ・ 学校便り及びHPにより地域住民や保護者への情報発信が積極的になされた。特に、地域との交流活動においては、体験活動から学んだことを分かりやすく伝えていた。

【学校からの情報発信 3.5 → 3.5】

- ・ 教育目標の具現化のための適切なグランドデザインが作成され、学校運営協議会において共有された。今年度は、児童によるあいさつキャンペーンの取組についての発表があったり、あいさつについて児童生徒と話し合う場面があったりと、大変有意義な会となった。

3 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

(1) 豊かな心の育成

- ・ あいさつを地域に広げる活動の活性化
- ・ 規範意識の向上

(2) 確かな学力の育成

- ・ 児童の学習意欲と基礎学力の向上を目指した「主体的に学び続ける児童の育成」を図る授業づくり
- ・ 基本的な学習習慣の確立（学習規律の徹底、家庭学習、読書活動）
- ・ 様々な学力調査分析を基にした確かな学力の向上

(3) 健康な心身の育成

- ・ 体力向上、視力低下者の増加防止、う歯治療100%

(4) 社会に開かれた教育課程の実現

- ・ 学校運営協議会を通じた地域住民の教育活動への積極的な参画
- ・ 児童による地域貢献活動への積極的参加
- ・ 不登校児童の改善及びその予防につながる学級経営の充実

